

令和元年度高知女子大学看護学会公開講座報告

「やってみてわかる！看護の質的研究」 「やってみてわかる！看護の量的研究」

令和元年度の公開講座は、高知県立大学と共催し、令和元年9月21日（土）に「やってみてわかる！看護の質的研究」をテーマに、第1回と第2回を開催、令和元年9月28日（土）に「やってみてわかる！看護の量的研究」をテーマに、第3回と第4回を、高知県立大学池キャンパスにて開催しました。県内外から看護師や保健師、助産師、看護教員、大学院学生、学部学生、のべ200名余りが参加してくださいました。

第1回は、質的研究の「インタビューガイドの作成とインタビューの実際」について、講師 高谷恭子先生（高知県立大学准教授）で開催されました。参加者は58名でした。看護の質的研究でのテーマの選定に始まり、インタビューガイドを用いたデータ収集、具体的なインタビューの進め方についてご講義いただきました。「今まで具体的にインタビューガイドの作成や分析について分かりにくかったが、講義を受けて理解することができた」「実践を踏まえた具体的に分かりやすい講義でした」「看護研究はなかなか理解しにくい内容だったがスーッと入ってきた」などのご意見がよせられました。



第2回は、質的研究の「インタビューデータの分析」について、講師 池添志乃先生（高知県立大学教授）で開催されました。参加者は67

名でした。データへ向き合い、語りのひとつひとつに対して何度もデータに戻りながらその意味を探究し、ラベル付けをしていく方法について学んだ後、インタビューデータを用いて、語りの意味を検討しコード化を行う演習に取り組みました。参加者の方からは、「実際に生データからコード化やカテゴリー化をすることが理解できた」「実際の分析過程を練習出来てとても良い学びになった」「これから職場での研究でデータ分析に取りかかるため参考になった」などのご意見とともに、「時間がたりないため1日かけてやって欲しい」などのご意見もよせられました。



第3回は、量的研究の「質問紙の作成」について、講師 内川洋子先生（高知県立大学准教授）で開催されました。参加者は39名でした。研究は、テーマ・目的・方法の選択と検討、文献検討を行きつ戻りつしながら同時にすすめられ、質問紙の作成もこのプロセスの中で行われることが説明された後、質問紙作成のポイントやプロセスがわかりやすく講義されました。参加者の方からは、「臨床にいる看護師でも分かりやすかった」「講座のニーズを把握して進めていて良かった」「現在取り組んでいる研究の確認ができた」「量的研究はしたことがないため勉強になった」などのご意見がよせられました。



第4回は、量的研究の「データ分析の進め方の実際」について、講師 井上正隆先生（高知県立大学講師）で開催されました。参加者は38名でした。研究によって何を明らかにしたいかをイメージしながら検定方法を選択し、リサーチクエスションをたて、協力者を選定していくプロセスから、実際の結果の読み取りまで、大変わかりやすく講義してくださいました。参加者からは、「ワークシートを实际使用しながらだったため分かりやすかった」「話がとても楽しく面白かった」「現在研究に取り組んでおり悩んでいたが、講義を受けて悩みが軽減した」「統計のイメージが変わった」「シンプルで分かりやすかった」などのご意見がよせられました。



平成30年度の公開講座は、どの回も20～30名の参加でしたが、令和元年度はさらに参加者が増えています。実施後のアンケート評価では、答えてくださった方のうち約94%の方が、満足～とても満足と答えていました。公開講座で研究方法をテーマに取り組み始めてもう数年がたちます。平成29年度は参加者が減少し、他機関の研修内容との重なりも課題で、次のテーマを考えていくことも検討されました。しかし、平成30年度、令和元年度と参加者が増加しており、研究方法を具体的に学びたいというニーズの高さを痛感しております。今後も、参加者のみなさまのアンケートなどを参考にしながら、おもしろい公開講座を提供していけたらと考えております。参加者のみなさま、また、講師のみなさま、ご参加とご協力をありがとうございます。